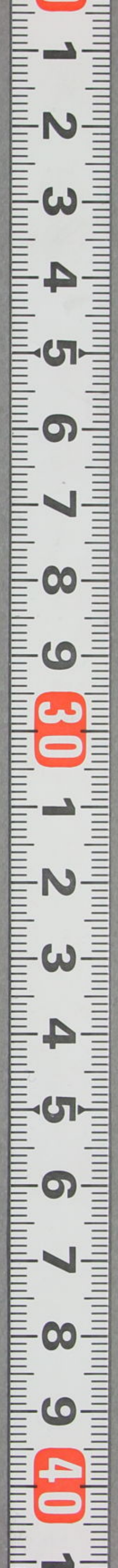


十編上

~ 13  
3706  
19





門 へ 13  
 號 3706  
 卷 19



まふるは  
 りに

漢は倭の史のうへもあつて美人と花よたて顔をもせし芝蘭芙蓉の如く  
 丹花の唇柳の眉姿の海棠に似たりと最も言ひ倣ふと今  
 卑俗の言ひあるやと人の體を器賤し壁へ頭の少くひらめるるを  
 或は木槌天窓のりひ元とて樂錘と号けあやつと顔と授子と笑ひ  
 度と手足と入替のあつとわの肥うと見ると四斗樽と菰と巻とと誹る  
 然る言語の美しと都て言ひ死ものあれと年毎に著し冊子も又の  
 甲語の彙ひの板元足と播木と櫛の齒と挽く催促ととやび  
 吉の綴りて間も時も合さず鋼炭も薄墨も捧のあつと筆を  
 ひて文字もさあがら鐵釘の曲り形もつらつと復此策子の編輯とと

一  
 十四

戊陽春吉辰

為永春水記

椿園玄湖書





兵庫柳原  
仮名屋の娼妓一文字

摩耶藏  
雲右門

小瓶茶  
挽藏

八十一

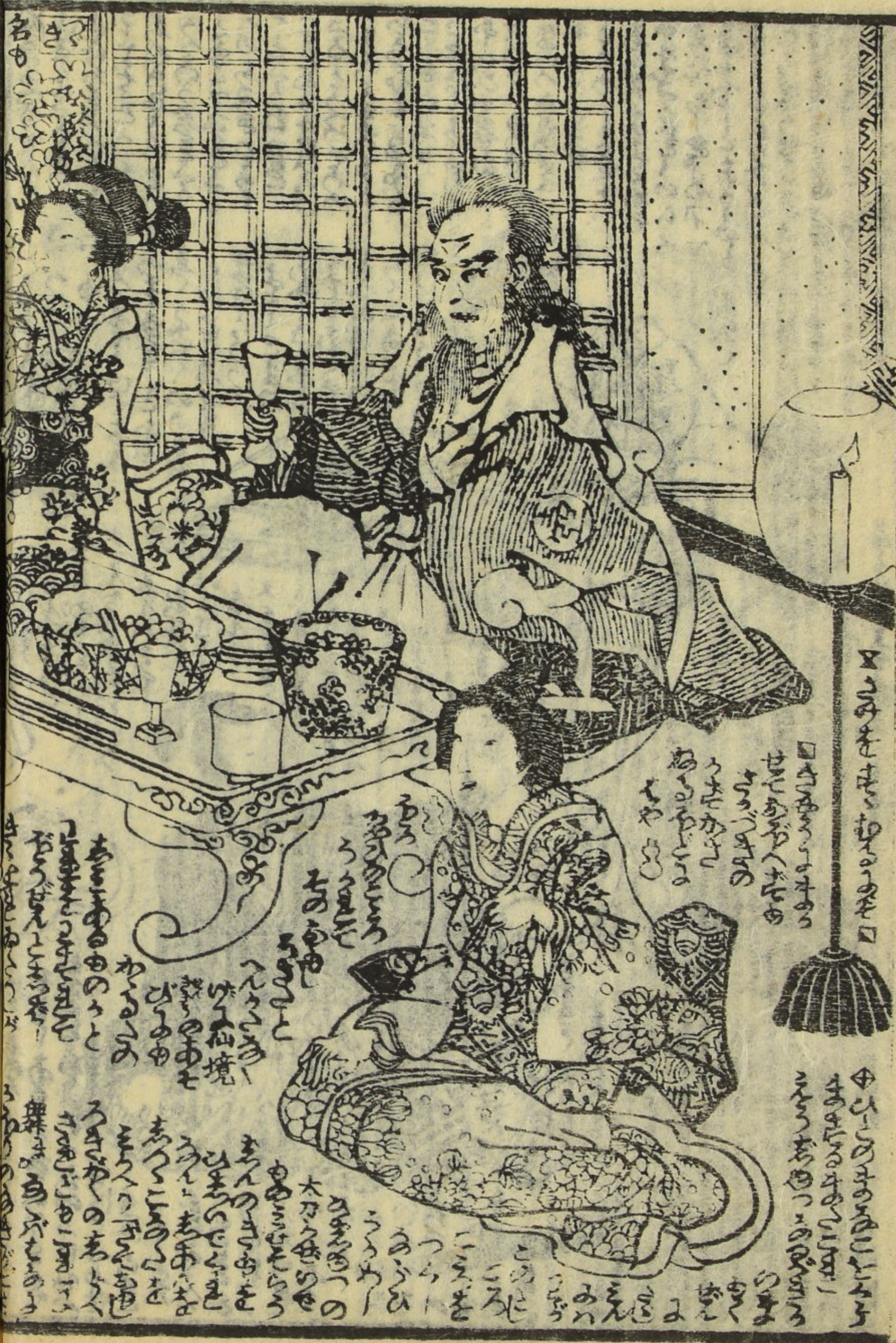




























Handwritten text in a cursive script, arranged in a vertical column on the left side of the page. The characters are densely packed and appear to be a form of Chinese or Japanese calligraphy.

Handwritten text in a cursive script, arranged in a vertical column on the right side of the page. The characters are densely packed and appear to be a form of Chinese or Japanese calligraphy.

Handwritten text in a cursive script, arranged in a vertical column on the right side of the page, positioned below the main text block.

Small handwritten text or a signature located on the right edge of the page, near the top.





此の物語は、昔の事なり。ある日、ある處に、  
 一人の女あり。其の姿、殊に麗し。人々皆、  
 之を慕ふ。然るに、其の心、固く。誰の言も、  
 聞かず。一日、ある男あり。其の才、  
 殊に高し。人々皆、之を敬ぶ。然るに、  
 其の心、固く。誰の言も、聞かず。

此の物語は、昔の事なり。ある日、ある處に、  
 一人の女あり。其の姿、殊に麗し。人々皆、  
 之を慕ふ。然るに、其の心、固く。誰の言も、  
 聞かず。一日、ある男あり。其の才、  
 殊に高し。人々皆、之を敬ぶ。然るに、  
 其の心、固く。誰の言も、聞かず。

此の物語は、昔の事なり。ある日、ある處に、  
 一人の女あり。其の姿、殊に麗し。人々皆、  
 之を慕ふ。然るに、其の心、固く。誰の言も、  
 聞かず。一日、ある男あり。其の才、  
 殊に高し。人々皆、之を敬ぶ。然るに、  
 其の心、固く。誰の言も、聞かず。



# 春水作國貞画



春水作國貞画  
 此画乃國貞所作  
 其意深遠  
 不可言喻  
 誠為畫中  
 一絕也

## 蘭母散

此散乃治一切  
 瘡毒之聖藥也  
 凡患此症者  
 宜早服之  
 無不立效

## 柳葉月朝素

此素乃治一切  
 皮膚病之聖藥也  
 凡患此症者  
 宜早服之  
 無不立效

## 藪黃鷄八幡不知

此不知乃治一切  
 瘡毒之聖藥也  
 凡患此症者  
 宜早服之  
 無不立效

此乃治一切瘡毒之聖藥也  
 凡患此症者宜早服之  
 無不立效  
 誠為畫中一絕也



